

新型コロナウイルス 差別・偏見をなくそう！

～優しさと思いやりはウイルスと闘う力になる～



緊急事態宣言が出る中で、「マスク」「手洗い」「換気」といった感染予防のための行動を、より一層一人ひとりが徹底しましょう。

一方で、感染した人を責めたり、心ない言葉をかけたりすることが全国で起き、問題に

なっています（差別・偏見）。いつ自分が感染するか、また身近な人が感染するかわかりません。不安な気持ちはあって当然です。でもこんな時期だからこそ、医療従事者の方をはじめ、私たちの生活を支えてくれるすべての方々に感謝し、お互いを認め合い、みなさんのやさしさを安心して通える学級、学校であってほしいと願っています。

新型コロナウイルスによる差別・偏見について考える授業を、全学年休校明けの6月に行いました。また1年生では夏休み明けに、2年生では12月にも更に学習を進め、理解を深めています。今回は、2年生の感想の一部を紹介します。

コロナウイルスに関して、不安に思っていること…

【自分が感染することへの不安】

- ★「かかりたくない…」
- ★自分がかかっているかもしれないこと
- ★周りがもしかしたら感染者かもしれない
- ★ベッドの数が足りていないから、入院できるか心配
- ★マスクをつける人が増えてはいるけど、まだ全員はつけていないから不安
- ★電車で通学する際、密になる

【自分が感染し、人にうつすことへの不安】

- ★みんなにうつしてしまったらどうしよう
- ★自分がなって家族や友だちにうつしたくない
- ★家におじいちゃんやおばあちゃん、ひいじいちゃん、ひいばあちゃんがいるから、かかりたくない

【コロナによる差別への不安】

- ★感染して差別されるのが怖い
- ★「コロナや」「こっち来るな」と言われたいか不安
- ★コロナになったら人間関係が悪くなりそう
- ★周りの人が感染した時に、感染した人に対する差別がおきないか不安
- ★親が医療従事者で、その病院でクラスターが起きたときに、裏でヒソヒソ言われるのではないか…

「新型コロナウイルス 差別・偏見をなくそうプロジェクト」
文科省監修ポスターより

差別や偏見をなくすために私たちができること

【温かい雰囲気を作りたい】

- ★誰がいつかかってもおかしくないことを知っておく
- ★悪いのは感染者ではなく、ウイルスだということを意識する
- ★言い出しにくい空気にならない（多数）
- ★優しい気持ちで人と関わる 思いやり、温かい心をもつ
- ★優しさと思いやりはウイルスと闘う力になることを知った
- ★人の気持ちを考えて言葉を伝えたい
- ★風邪などをひいたときに「コロナや」など嫌がる言葉を使わない
- ★差別的な発言をせずに、良い社会にしたい

【うわさを広めない】

- ★うわさを信じこまない
- ★本当のことかわからないのに、自分からうわさを発信しない
- ★悪乗りにはならない
- ★SNSに情報をあげない
- ★感染した人が誰か広めない

【感染した人に温かく接したい】

- ★かかった人を責めない
- ★悪口とか陰口を言ったりしない
- ★かかった人も、マスクをしていなかったり、手洗いうがいをしていなかった訳じゃないし、なりたくてなった訳じゃないと思う
- ★戻ってきたときに温かく迎える
- ★かかった人に、『大丈夫?』とか心配するLINEを送る
- ★自分がなってしまったとき、どういう言葉をもらえたら安心できるか考えて行動しようと思った

【差別をしている人に対してできること】

- ★差別していることが「間違えている!」と言えるようにする
- ★差別をしている人に、「自分もかかるんやで!」って言う
- ★差別している人に対して理解を求める

【感染を広げないようにしたい】

- ★まず自分がかからないようにたくさん予防をする
- ★全員が感染予防をする

